

男女共同参画情報コーナー

とらいあんぐる

*このコーナーは「とらいあんぐる」編集委員により編集されたものです。

「とらいあんぐる」とは…参画(さんかく)と三角(さんかく)を掛けてつけました。「市民・行政・地域」、「教師・児童生徒・保護者」、「上司・部下・自分」いろいろな社会において、常に三者(三角)の関係はとても大切です。このコーナーを作成するにあたって、それぞれの「さんかく」を念頭におき、お互いがトライアングルのように響きあいながら、理解し合えるような社会を築けるようお願いを込めました。

ご存知ですか？

私たちの住む薩摩川内市には、各地域からの推薦や公募による「女性50人委員会」があります。平成17年発足以降、現在は第4期目になります。

4つの分科会に分かれ、それぞれのテーマごとに学習し、女性の視点から市政に対し、政策提言を行います。例えば、中央図書館の親子ルーム新設なども、私たちの提言がきっかけで事業化された一つです。

市民の一人として抱く素朴な疑問や問題点を見つけ、提言につなげる。これらに対する市からの前向きな回答を、私たち委員会のメンバーだけで共有するのは、もったいないと思います。市政に興味を持ち、研修や学習を重ねることで、意識が変わりました。

「どんな人もその人らしく生きることができると社会を目指して」

「東北に行って来て強く感じたこと」

内野久子さんに聞きました

(薩摩川内市社会福祉協議会ボランティアセンター所長)

約1年半前に起きた東日本大震災。喪失したのは、人命や建物だけではありません。別居を余儀なくされている家族。自分が余生を送るつもり自宅に戻れずにいる方々。言葉をかけ合う隣人のいた地域の喪失。

時間が結構経ったようにみえても、実は、地域崩壊・家族崩壊は、まだまだ修復されていません。今、深刻な問題になってきているのは、アルコール中毒・孤独死・自殺です。

そんな中で、人々が心を寄せ合う場所として大きな役割を果たしているのが「サロン」です。本市社会福祉協議会では、東日本大震災の例からも、サロンの重要性を再認識し、活性化や立ち上げのお手伝いをするのを重点目標にしています。平成23年度は、本市全体で188会場立ち上がっています。

災害は、年齢・貧富・性差に関係なく誰にでも起こります。災害があったとき、滅災と復興の基盤は地域力といえます。つまり、日頃からいかにその地域の人々がつながっているかということ。す。「ひととは人、自分は自分」という生き方の選択を否定はできないけれど、鹿児島のように災害の

今年の全体研修会では、「男女共同参画の視点について」というテーマで、たもつゆかり先生のお話を聞きました。その内容の一部を紹介します。

「男性は外で働き、女性は子育てをしながら家庭を守るもの」という固定的な性別役割分担の考え方が、今の社会には、まだ根強く残っているように見えます。元をたどると、明治時代に施行された旧民法に行きつきます。そこから、意識するしないに関わらず、男性も女性も、なかなか抜け出せないでいるようです。この固定的性別役割分担社会の反対側に、男女共同参画社会があります。それは、一人一人の「多様な生き方」を認め、一人一人にとって幸せな社会実現を目指しています。

女性と男性の違いは、女性が子どもを産む可能性がある性であるというところ。日本では、多くの女性が出産・育児・介護などの理由で、就業中斷することにより老後所得の格差が起きています。

内閣府が先進国の状況調査を行ったところ、女性の労働力率が高い国ほど、出生率が高いという関係になっています。これは、女性の労働力率が高くなった国は、出生率を上げる社会環境整備を行う努力をしているから。今、私はシングルマザーの問題に取り組んでいます。一般的には「シングルマザーであること」に差別と偏見があるようです。二つも三つも仕事を掛け持ちしながら子育てをしていると、子どものお弁当作りなどもおろそかになりがちです。そんな一面を見て、あれこれ言われたりします。悪気が無いにしても、いろいろ言う人がいます。言われる方は傷つき、大変暮らしにくい社会だと言わざるを得ません。人の意識を変えていくことはとても大変ですが、「シングルマザーであること」など現実の姿を、まず容認できる社会を目指して諦めないでいきたいですね。

最後に、女性50人委員会へ対して、「一人一人の立場に立って、みんなで作る！」の気持ちで、ぜひ、薩摩川内市がもっと住みやすい街になるように、提言を出し続けて行ってください。」とエールをいただきました。



たもつ ゆかり さん

- ・オフィスピア代表
- ・地域づくりプランナー・男女共同参画政策アドバイザー
- ・コピーライターを経て、1981年オフィスピア設立
- ・1997年「かごしま女性政策研究会」を設立し、男女共同参画政策に関わる研究・実践活動を展開

■たもつゆかり先生 語録

- それぞれ生活している立場からものを見るということが必要だが、どの生き方が「〇」とか「×」とかいうことではない。人権の問題
- 次の世代(子や孫)にまで、昔からの大人社会のすりこみを渡さないことも大切
- 性別に関わりなく、一人一人が公平中立な社会が理想。多様な立場の人が、活かされる仕組みや自己実現を支える仕組みを、みんなで作っていきましょう。

本市社会福祉協議会では、高齢者の皆さんを対象に茶話会など行う介護予防事業の一環として、「ふれあい・いきいきサロン」を開催しています。

【問合せ先】薩摩川内市社会福祉協議会(永利町) 099-223355



～つづやきから見える 男女共同参画～

「男女共同参画の視点」が、見過ごすことのできない日々の暮らしの中でのつづやき(まちづくり塾受講生のアンケートから)と、編集員のため息と嘆き…一緒に考えてみませんか？

- [小さい頃、あなたは男の子に生まれたら良かったのにねと言われた。] ……「性差ではなく個人差」という気付きには、まだまだ時間がかかりそう…。
- [子どもに対して、女の子だからこのくらいいいや、優しい子であればいいや…と育ててきたような気がする。]
- [女なので、職業系の学校へ行き、進学するという思いさえもできなかった。弟は、普通高校へ進学し、大学へも進んだ。] ……右肩上がりの高度経済成長期、「男は仕事、女は家庭」が主流の考え方でしたが、「これまでのやり方」がさまざまな問題の原因になってきているようです…。
- [小学生の頃、学級委員長は男と決められていたことがすごく腹立たしかった。]
- [コミュニティの中で、長は男性にやってもらって、副を女性に。この習慣いつまで続くの？] ……男尊女卑の意識は、まだ根強く残っているようです。学習の機会が男女平等であれば、女性もやればできると思います。そして、女性も自ら手を上げる勇気！
- [あそこが汚れている!?洗濯物が取り入れてない?気付いたらその人がやればいじゃないの私だけの役目?違うよー!]
- ……固定的性別役割分担意識には、困ったものです。できる人が、できることを、できるやり方でやれば、暮らしやすいのに…。
- [何をしてもいいよ、と言う夫。そのあとに、家のことをちゃんとやっから…家族に迷惑をかけないなら…とくる。] ……なぜ、応援するよ!と言ってくれないの～～～
- [女性はいいよな、簡単に決断して行動に移すことができ。男性は家族を養うから、簡単に仕事を辞めたり、転職なんてできない。と言われました。] ……目指すのは、「ともに支え合う」つながりです。がんじがらめに「男」を背負っているあなたにこそ気付いてほしい…。

男女共同参画社会は、誰もがその人らしく、生きやすい暮らしを目指しています。男だから、女だから…を止めて、「自分らしく」をもう一歩踏み出しませんか。フォーラム(第2分科会川内ばれっと主催)で、あなたもつづやいたり、誰かのつづやきを聞いてみませんか。暮らしやすい明日への気付きが、あるかもしれません。

～アンケート抜粋～